



# 2015 環境報告書

Environmental Report



# 2015 環境報告書

Environmental Report

## 1 環境方針

環境に関する基本方針	1
------------	---

## 2 環境マネジメント

環境マネジメントシステム	2
環境目標と結果	3
2014年度の環境会計	4

## 3 環境保全活動

事業活動に伴う環境負荷	6
環境パフォーマンスの推移	7
化学物質の管理	10

## 環境に関する基本方針

### 経営理念

#### 「独創の技術」「信頼の品質」「万全のサービス」

わたしたちは、エレクトロニクス関連の界面処理を核とする技術開発力を最大の特長としながら、「独創の技術」「信頼の品質」「万全のサービス」を信条に、グローバルな事業活動を展開し、豊かで潤いのある社会に貢献します。

#### 社是 “仕事を楽しむ”

#### 社訓

1. 失敗を恐れず常に新しい目標に挑戦しよう
2. 飽くなき好奇心で工夫改善を重ねよう
3. 協調と感謝の気持ちで力を合わせ仕事を進めよう
4. 安全と健康に気を配り楽しい職場を作ろう
5. 広く社会に役立つことを心掛けよう

当社は上記の経営理念に基づき、環境保全活動の指針となる環境方針を以下の通り制定しました。この方針に従い、省資源・省エネルギー化など環境保全に取り組み、地球環境と調和した持続可能で豊かな社会の形成に貢献していきます。

### 環境方針

メック株式会社は、ISO14001 に準拠した環境マネジメントシステムに従い、環境保全を推進します。

1. 当社の活動に係る環境側面を認識し、環境関連法規およびその他の要求事項を順守すると共に、環境マネジメントシステムの継続的改善と管理レベルの向上に努める。
2. 資源の有効利用、汚染の予防および環境保全のため、
  - ・省エネルギー対策
  - ・廃棄物の削減、リサイクル
  - ・プロダクトライフサイクルに配慮した製品の提供
  - ・化学物質管理の実施を推進する。
3. この環境方針は当社で働く全ての人に周知すると共に、一般の人にも開示する。

2015年4月1日  
メック株式会社  
代表取締役社長 前田和夫



## 環境マネジメントシステム

### ISO14001 の取得状況

当社は、継続的な環境保全活動を推進していくために、全拠点を対象として ISO14001 に準拠した環境マネジメントシステムを構築しています。今後も、環境マネジメントシステムの継続的改善と管理レベルの向上に努めていきます。

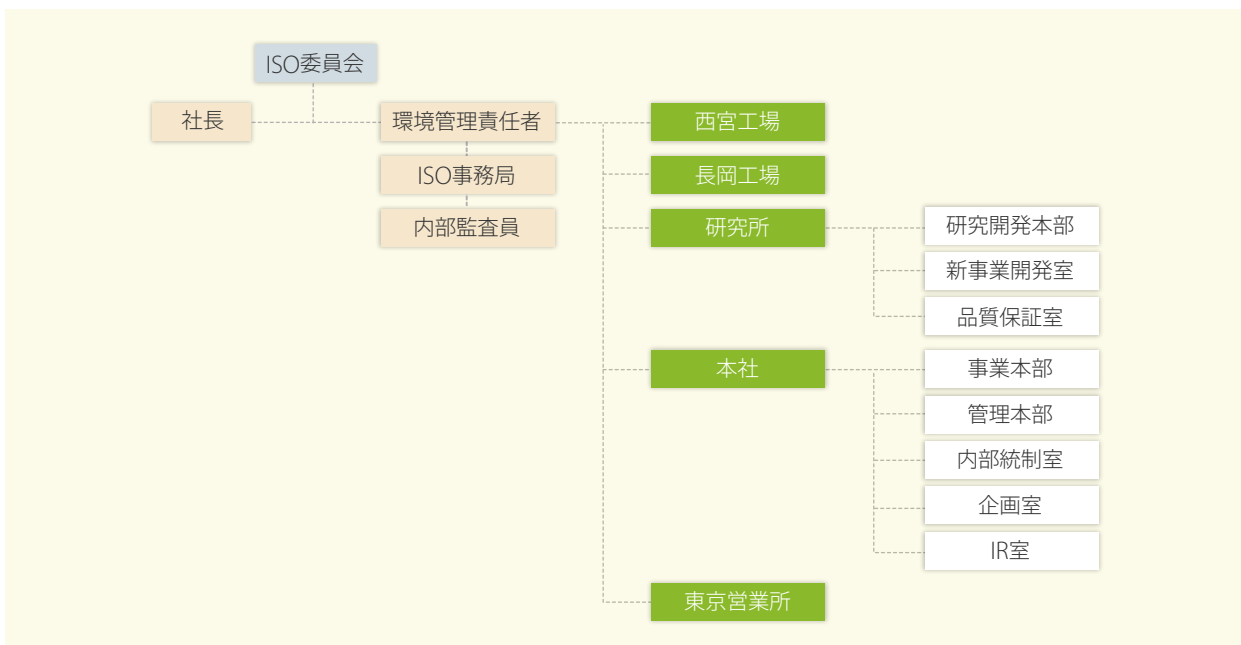
### 内部監査の実施

2014 年度は、2014 年 10~11 月に内部監査を実施しました。主に環境マネジメントシステムの運用状況と改善活動の進捗状況の確認に加え、法令およびその他の要求事項の順守状況、前回の外部審査および内部監査での指摘事項等の是正状況などを確認しました。不適合が 3 件ありましたが、2 件は既に是正完了済、1 件は是正中となっています。その他、観察事項や改善の機会については、内容の重要度に応じて改善を進めています。不適合是正中の 1 件を含む改善状況の確認は、2015 年度の内部監査で実施予定です。

2015 年 2 月の外部審査では不適合が 3 件ありましたが、是正完了し、環境マネジメントシステムの維持認証が実施されました。2014 年度は所定の教育を受けた 5 名が内部環境監査員として新たに認定され、2015 年 3 月時点で 48 名が内部環境監査員に認定されています。

### 環境推進組織

当社は、品質保証室長を環境管理責任者とし、事業所の責任者をはじめ、ISO 事務局、各事業所から選任された委員で構成される ISO 委員会が中心となって、各事業所のさまざまな活動や改善目標に対する進捗を掌握し、推進しています。環境への取り組みは、以下の組織のもとで行っています。(2015 年 4 月現在)





## 環境目標と結果

2014 年度の主な環境目標への取り組みに対する結果を下記に示します。

### 2014 年度環境目標とその結果

環境目的	2014 年度 環境目標	2014 年度 結果	評価
排水自主基準値を 順守する	排水自主基準値オーバー 1 件以下に抑える :( 西宮工場)	基準値逸脱 2 件発生。 西宮市に報告済、暫定処置済。	×
	排水自主基準値オーバーを 2 件以下とする :( 長岡工場)	自主基準値逸脱 2 件発生。 法順守は問題無し。	○
排水管理の レベルアップ	( 排水 ) 非常事態マニュアルを作成する :( 研究所)	対処方法や各法令、公的機関連絡 先も明記した、排水非常事態マニ ュアルを整備した。	○
化学物質を適正に 管理する	2013 年度導入した毒劇物管理システムを 一般試薬に適用する :( 研究所)	全試薬の動きが 一括管理できるようになった。	○
環境活動の効率化 ( 研究所内)	安全・衛生・環境に係る活動の情報伝達が スムーズに進むように、役割分担を明確にする :( 研究所)	役割分担を明確にし、 情報の伝達がスムーズになった。	○
環境改善に寄与する 製品の販売を促進する	重点顧客の環境改善に寄与する。 : 採用案件数 2013 年度比 10%Up(5 件) ( 東京営業所)	採用案件数 :1 件	×
環境配慮活動の実施	電力使用量の低減 : 管理範囲を広げた上で 2010 年度比 10% 減 ( 本社)	8% 減	△
	エコキャップ運動 : ワクチン 15 人分 ( 本社)	ワクチン 12 人強分	△
	文具リユースプロジェクト活動 ( 文具の有効活用と廃棄防止および 発展途上国の子供たちへの教育支援 ) :( 本社)	2 回寄贈 ( 鉛筆 300 本以上など)	○

排水基準値逸脱が 2 件発生しましたが、適切に報告・暫定処置を実施いたしました。その後同様の事象は発生しておりません。  
今後も引き続き、適切な監視に努めていきます。





## 2014 年度の環境会計

環境会計は「環境保全コスト」(費用)と「環境保全効果」(物量)で構成されています。

2014 年度の「環境保全コスト」は、費用額 63,123 千円となりました。費用額の 41% は研究開発コストとして環境負荷の少ない製品の研究開発などに関わる費用です。

当社では薬品使用後の空容器回収を行っており、上・下流コストは費用額の 8% を占めています。主な費用内容は、20L ポリ容器や 200L ポリドラムの空容器回収、リユースのための容器洗浄委託(再商品化委託)に関する費用です。

### 【作成基準】

- ・集計期間：2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日まで
- ・集計範囲：メック株式会社 単体(西宮工場、長岡工場、研究所、本社および東京営業所)
- ・「環境保全コスト」は、目的が明らかに保全活動に関わるものと判断できる場合のみを対象としています。
- ・研究開発コストは、テーマ毎に把握できるものは個別に集計し、直接把握できないものはテーマ毎の勤務時間を基準に比例配分しました。
- ・費用額は環境保全を目的とした設備の減価償却費、維持管理費および人件費を含んでいます。

### 2014 年度 環境保全コスト

(千円)

分類	主な取り組みの内容	投資額	費用額	
(1) 事業エリア内コスト		0	28,314	
内 訳	1. 公害防止コスト	排水処理設備維持管理、水質汚濁防止等	0	8,713
	2. 地球環境保全コスト	省エネルギー対策	0	0
	3. 資源循環コスト	産業廃棄物の処理委託費用	0	19,600
(2) 上・下流コスト	容器の回収・再商品化委託費等	0	4,927	
(3) 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの維持・運用費用、事業所周辺の緑化費用	0	2,044	
(4) 研究開発コスト	環境負荷の少ない製品の研究開発	0	25,838	
(5) 社会活動コスト	地域環境保全活動等	0	2,000	
(6) 環境損傷対応コスト	該当無	0	0	
合計			63,123	

(千円)

項目	金額
当該期間投資額総額	219,639
当該期間研究開発費総額	877,819
(1)-3 に係る有価物の売却額	670
(2) に係る有価物の売却額	0

「環境保全効果」は、前年度（2013年度）絶対量との増減で表しました。指標によっては、原単位（生産量1t当たりに対する量）も併記しました。

## 2014年度 環境保全効果

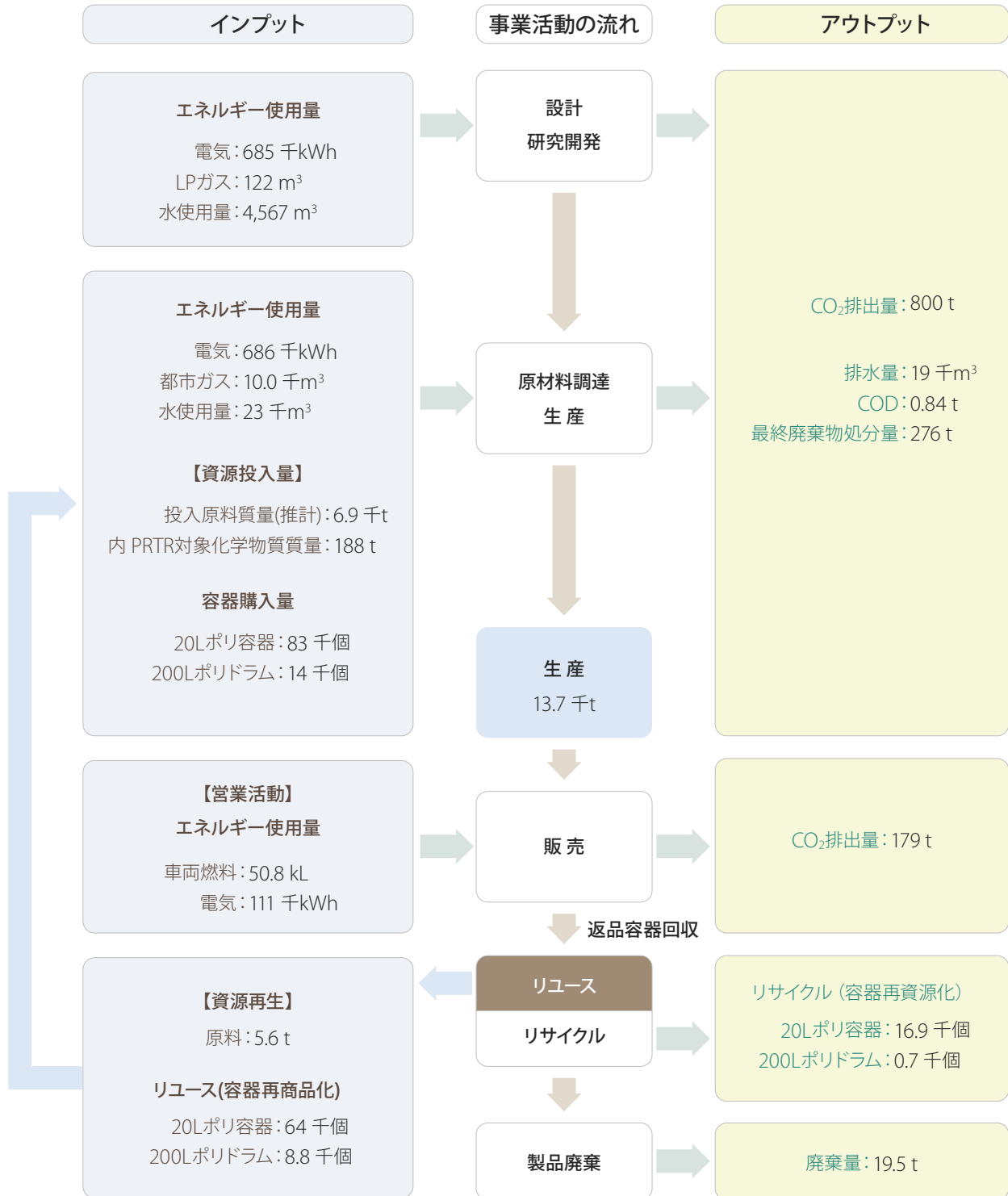
環境保全効果の分類			環境パフォーマンス指標			
			指標の値(量)	対前年比	指標の値(原単位)	対前年比
(1)事業エリア内コストに対応する効果	事業活動に投入する資源に関する効果	電力の投入量	1,482 [千 kWh]	△ 53 [千 kWh]	108 [kWh/t]	△ 6.2 [%]
		都市ガスの投入量	10.0 [千 m <sup>3</sup> ]	+ 1.2 [千 m <sup>3</sup> ]	0.7 [m <sup>3</sup> /t]	+ 10.8 [%]
		水の投入量	27.7 [千 m <sup>3</sup> ]	+ 1.3 [千 m <sup>3</sup> ]	2.0 [m <sup>3</sup> /t]	+ 2.0 [%]
	事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果	二酸化炭素排出量	979 [t-CO <sub>2</sub> ]	△ 36 [t-CO <sub>2</sub> ]	71 [kg-CO <sub>2</sub> /t]	△ 6.3 [%]
		CODの排出量	0.8 [t]	△0.1 [t]		
		産業廃棄物の総排出量	331 [t]	+ 89 [t]		
(2)上・下流コストに対応する効果	事業活動から産出する財・サービスに関する効果	容器のリユース個数 (ポリ容器延べ個数)	64.0 [千個]	+ 0.1 [千個]		
		容器のリユース個数 (ポリドラム延べ個数)	8.8 [千個]	+ 0.9 [千個]		

# 3 環境保全活動

Environmental Conservation



## 事業活動に伴う環境負荷



上図は、2014年度の当社の事業活動と環境への関わりについての全体量を表したものです。





## 環境パフォーマンスの推移

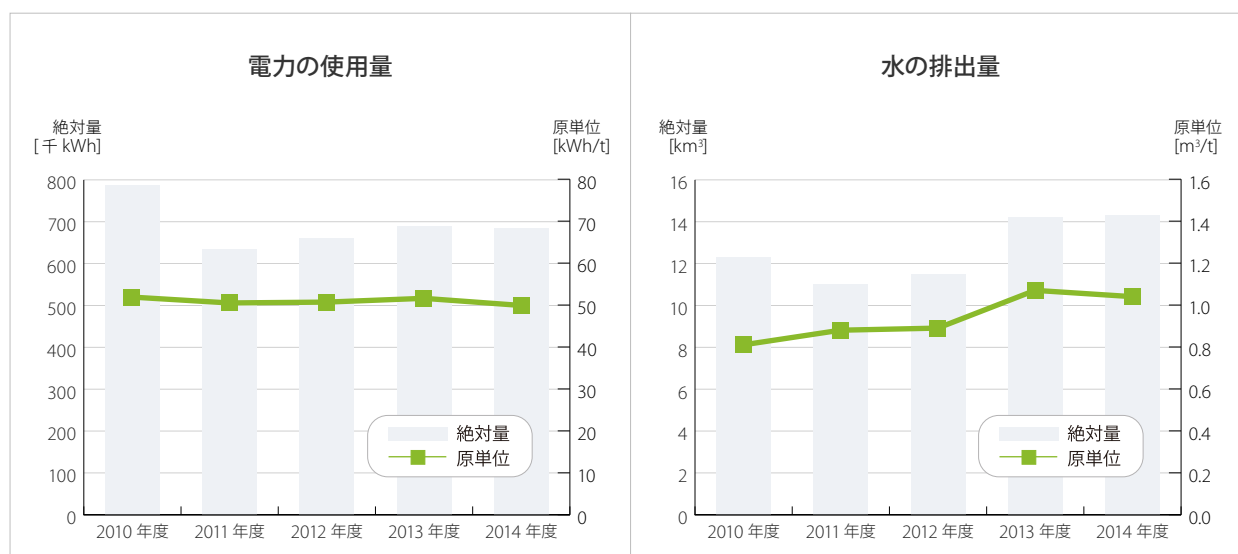
### 電力使用量

工場の2014年度電力使用量は686千kWhで、2013年度に比べて2千kWhの微減で、ほぼ変化がありませんでした。生産量は若干増加したため、原単位使用量も微減となりました。

### 水の排出量

工場では、水の使用量のうち一部を原料として使用します。それ以外に、生産設備の洗浄等でも多くの水を使用します。水資源の有効活用を進めるためにも、製造作業や設備洗浄方法等の改善を進めています。

2014年度の水の排出量は14.3km<sup>3</sup>で、2013年度と比べて0.1km<sup>3</sup>未満の微増で、変化がありませんでした。



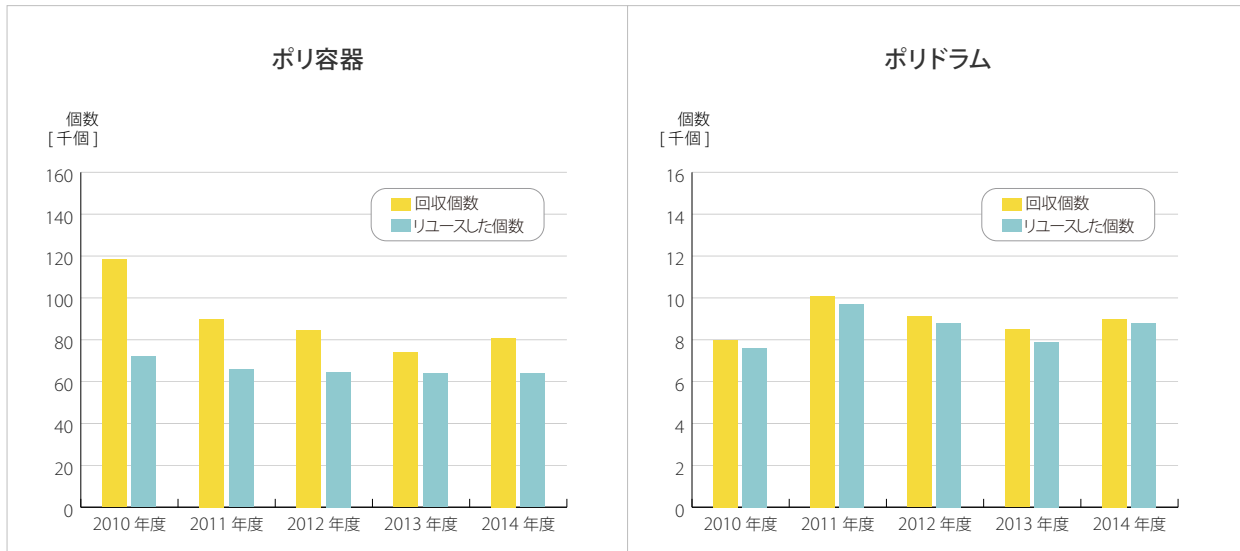
### 容器のリユースに関する取り組み

資源を無駄なく、有効に活用していくため容器のリユース（再商品化）を推進しています。

当社製品の主な容器は20Lポリ容器および200Lポリドラムです。顧客で使用された後の空容器回収を業者に委託し、回収した容器を各工場でもリユース可能かどうか選別し、リユース可能な容器に関しては、ポリ容器は自社で、ポリドラムは業者委託と一部自社にて洗浄をし、再商品化を行っています。

ポリ容器およびポリドラムの回収個数とリユースした個数の推移をグラフに示します。

2014年度のポリ容器およびポリドラムの回収率はそれぞれ55.0%、38.5%で、2013年度に比べてポリ容器は0.3%の減少でほぼ変化無く、ポリドラムは3.9%の減少でした。



廃棄物の適正処理

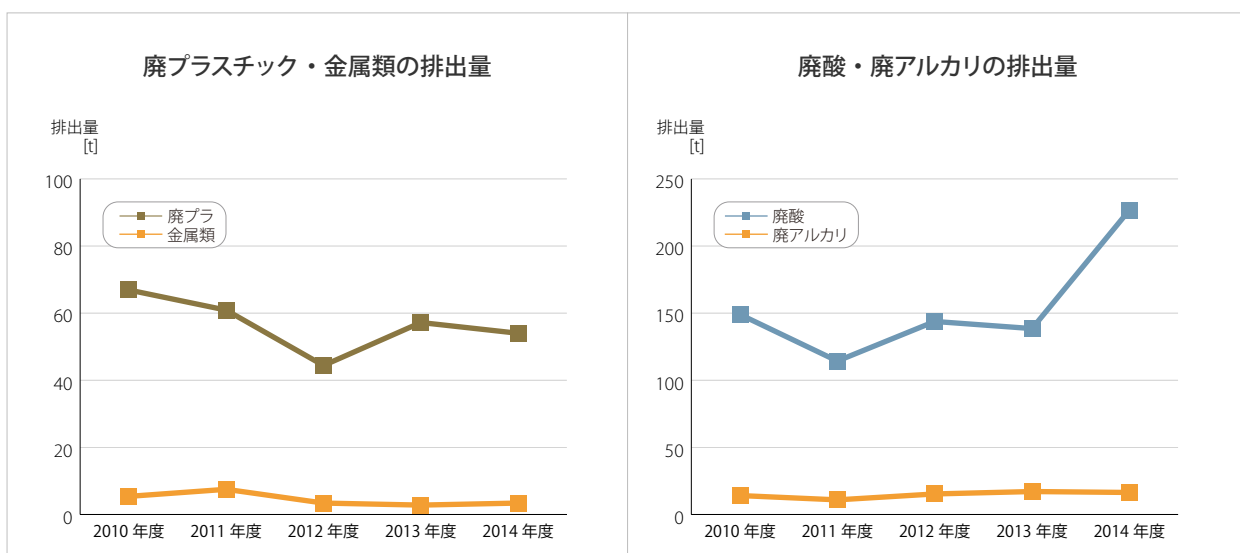
2014年度の廃棄物の発生量は331tで、2013年度比37%増加となりました。工場の廃棄物の発生量は微増でしたが、研究所で基板処理のためのライン稼働時間が多くなり、それに伴い発生する排水を廃酸の廃液として処理したことが増大の要因となっています。

工場でリユースできなくなったポリ容器、ポリドラム、パレット等は、2008年度以降、廃プラスチックのリサイクル(再資源化)を推進し、廃棄物の処分量の削減に努めています。また、金属類についても分別し、有価物として売却することを進めています。廃棄物の発生量のうち、リサイクル可能な廃棄物の発生量は、2013年度と同程度でした。

そのほか、事業所から出る廃棄物は、事業所毎の分別ルールに基づいて分別しています。

最終的に、2014年度の廃棄物の処分量は276tで、2013年度比52%増加となりました。単発的に発生した研究所での廃酸増が主な要因です。

今後も、廃棄物の発生抑制に努めるとともに、発生した廃棄物については分別の徹底等を図り、更なるリサイクルへの取組みの強化、処分量の低減を図っていきます。





## 化学物質の管理

### 製品含有化学物質管理

当社では、原材料購入から製品出荷まで、使用禁止物質による製品の汚染防止のため含有化学物質管理体制を構築しています。2015年4月に改訂した「製品含有化学物質管理基準」にて運用のレベルアップを図っています。これからも含有化学物質管理体制を徹底し、工場を始めサプライヤーを含めた製品含有化学物質管理の運用を更に推進していきます。

### PRTR について

2014年度に当社が取り扱った化学物質のうち、PRTR対象物質の取扱量は18物質188tでした。工場・研究所において、適切な管理のもと、使用しています。

環境負荷の低減が  
重要課題であることを認識し、  
これからも環境保全活動に  
積極的に取り組んでいきます。



<http://www.mec-co.com>

